

大学ファンド創設に関する状況と 大学研究力強化室の発足について

令和3年 9月2日 14:00-16:00

研究振興局 学術機関課

- 1. 大学ファンド創設に関する状況について**
- 2. 世界と伍する研究大学専門調査会の「中間とりまとめ」、CSTI本会議で決定された「運用の基本的考え方」について**
- 3. 大学研究力強化室の発足について**

10兆円規模の大学ファンドの創設

現状とファンド創設の狙い

- 研究力(良質な論文数)は相対的に低下
- 博士課程学生は減少、若手研究者はポストの不安定/任期付
- 資金力は、世界トップ大学との差が拡大の一途

- **世界トップ研究大学の実現に向け、財政・制度両面から異次元の強化を図る**
- ✓ **大学の将来の研究基盤への長期・安定的投資の抜本強化**
- ✓ **世界トップ研究大学に相応しい制度改革の実行**

制度概要

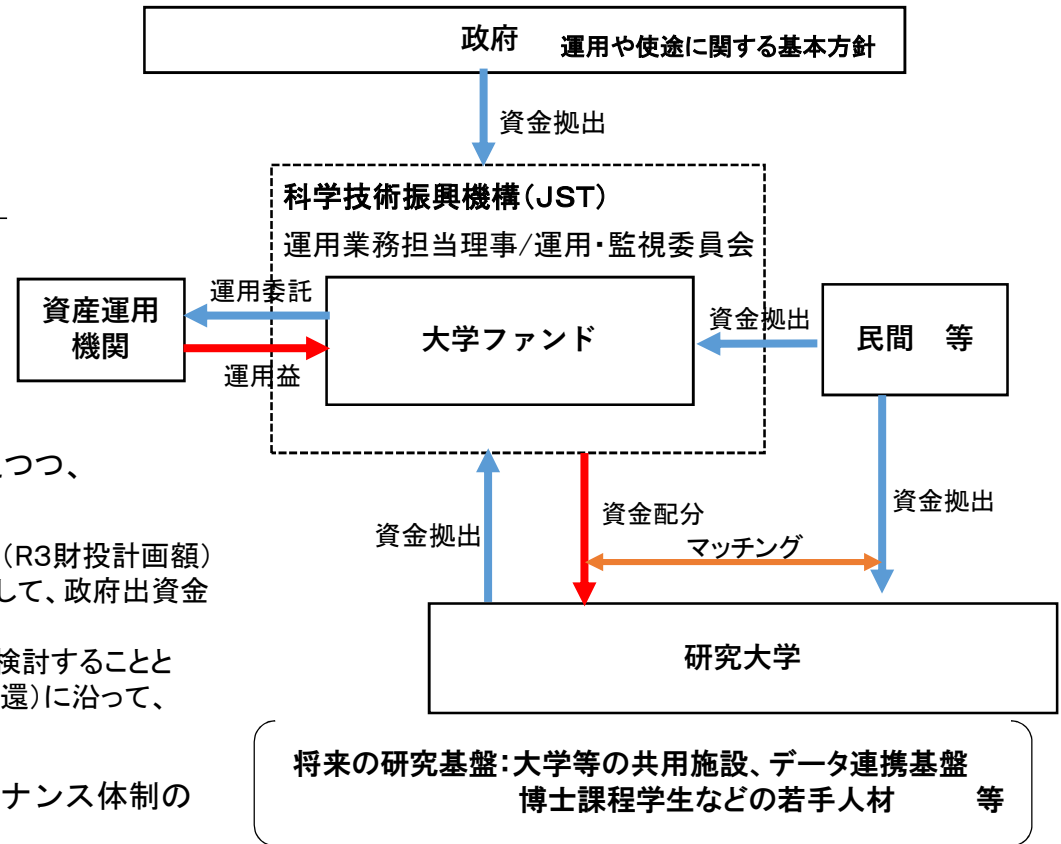
基本的枠組み

- 科学技術振興機構(JST)に大学ファンドを設置
- 運用益を活用し、研究大学における将来の研究基盤への長期・安定投資を実行
- 参画大学は、世界トップ研究大学に相応しい制度改革、大学改革、資金拠出にコミット
- 財政融資資金は50年の時限、将来的に大学がそれぞれ自らの資金で基金運用するための仕組みを導入。

大学ファンドの運用

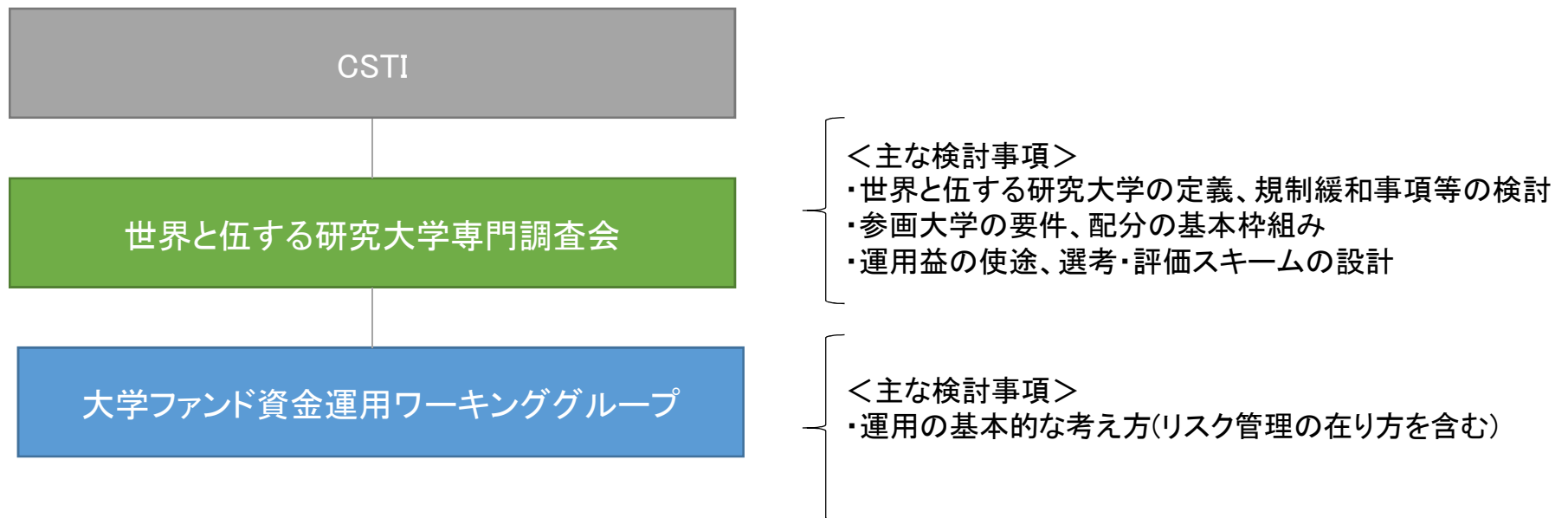
- **4.5兆円*1からスタート、大学改革の制度設計等を踏まえつつ、早期に10兆円規模の運用元本を形成*2**
 - ※1 政府出資0.5兆円(R2第3次補正予算)、財政融資4兆円(R3財投計画額)
 - ※2 R4概算要求においては、JSTの運用経費相当分の一部として、政府出資金10億円を要求、R4財政融資4.9兆円を要求
 - ※3 財政融資資金については、20年後を目途に今後の対応を検討することとし、融通条件(40年償還(うち据置期間20年)、元金均等償還)に沿って、順次約定償還。
- **長期的な視点から安全かつ効率的に運用/分散投資/ガバナンス体制の強化など万全のリスク管理**
- R3年度中の運用開始を目指す

スキーム

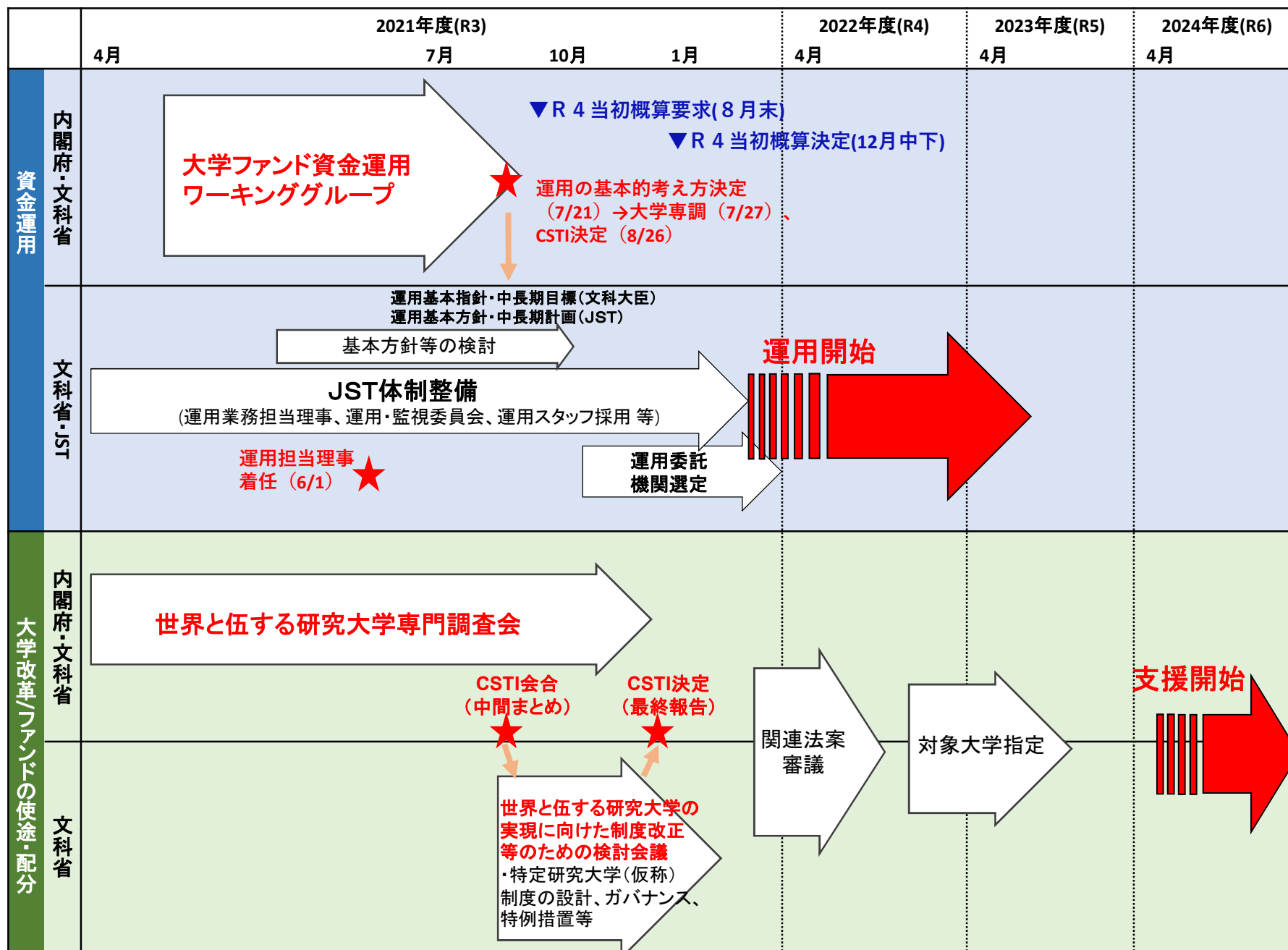


専門調査会の設置

- 大学ファンドの制度検討に当たっては、内閣府CSTIの下に専門調査会(世界と伍する研究大学専門調査会)を設置。
- さらに、同専門調査会の下に、金融・経済等の専門家からなるワーキンググループ(資金運用WG)を設置し、資金運用に係る専門的事項を検討。
- 専門調査会及びWGの運営に当たっては内閣府と文科省が連携。



大学ファンド これまでの進捗と今後のスケジュール



世界と伍する研究大学専門調査会における主な議論の状況

- 世界と伍する研究大学専門調査会では、大学ファンドの支援対象となる「世界と伍する研究大学」に求められる要素等について検討を行い、本年7月に「世界と伍する研究大学の在り方について(中間とりまとめ)」を取りまとめ。
- 秋以降、大学ファンドによる支援の基本的な考え方等について議論を行い、本年中に最終まとめを行う予定。

<会議の開催状況>

- 第1回 令和3年3月24日(水) テーマ:人材
・デービッド・プライス氏(ユニバーシティカレッジロンドン副プロボスト(研究担当))からヒアリング
- 第2回 令和3年4月16日(金) テーマ:資金
・ジョン・ウィルトン氏(元UCバークレー副学長(経営・財務担当)、元シンガポール国立大学副学長(経営・財務担当))からヒアリング
- 第3回 令和3年5月21日(金) テーマ:ガバナンス
・ロバート・バージノー氏(カリフォルニア大学バークレー校名誉学長・教授)からヒアリング
- 第4回 令和3年6月8日(火)
・松本元京都大学総長、平野前大阪大学総長、里見前東北大学総長、五神前東京大学総長からヒアリング
- 第5回 令和3年6月30日(水)
・リチャード・レビン氏(元イエール大学学長)、タン・チョー・チュアン(前シンガポール国立大学学長)からヒアリング
- 第6回 令和3年7月19日(月)
・中間とりまとめ(骨子案)審議
- 第7回 令和3年7月27日(火)
・中間とりまとめ(案)審議

<構成員>

- ◎ 上山 隆大 総合科学技術・イノベーション会議議員
- 篠原 弘道 同
- 橋本 和仁 同
- 安宅 和人 ヤフー株式会社 チーフストラテジーオフィサー
- 遠藤 典子 慶應義塾大学 グローバルリサーチインスティテュート 特任教授
- 金丸 恭文 フューチャー株式会社 代表取締役会長兼社長グループCEO
- 川合 真紀 自然科学研究機構 分子科学研究所長
- 小林 喜光 株式会社三菱ケミカルホールディングス 取締役会長
- 白石 隆 公立大学法人熊本県立大学 理事長
- 菅 裕明 東京大学大学院理学系研究科 教授
ミラバイオロジクス株式会社 取締役
- 富山 和彦 株式会社経営共創基盤 IGPIグループ会長
- 林 いづみ 桜坂法律事務所 弁護士
- 村山 斉 カリフォルニア大学バークレー校 教授
東京大学 国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構 教授

※以降も月に1回程度の頻度で会議を開催。

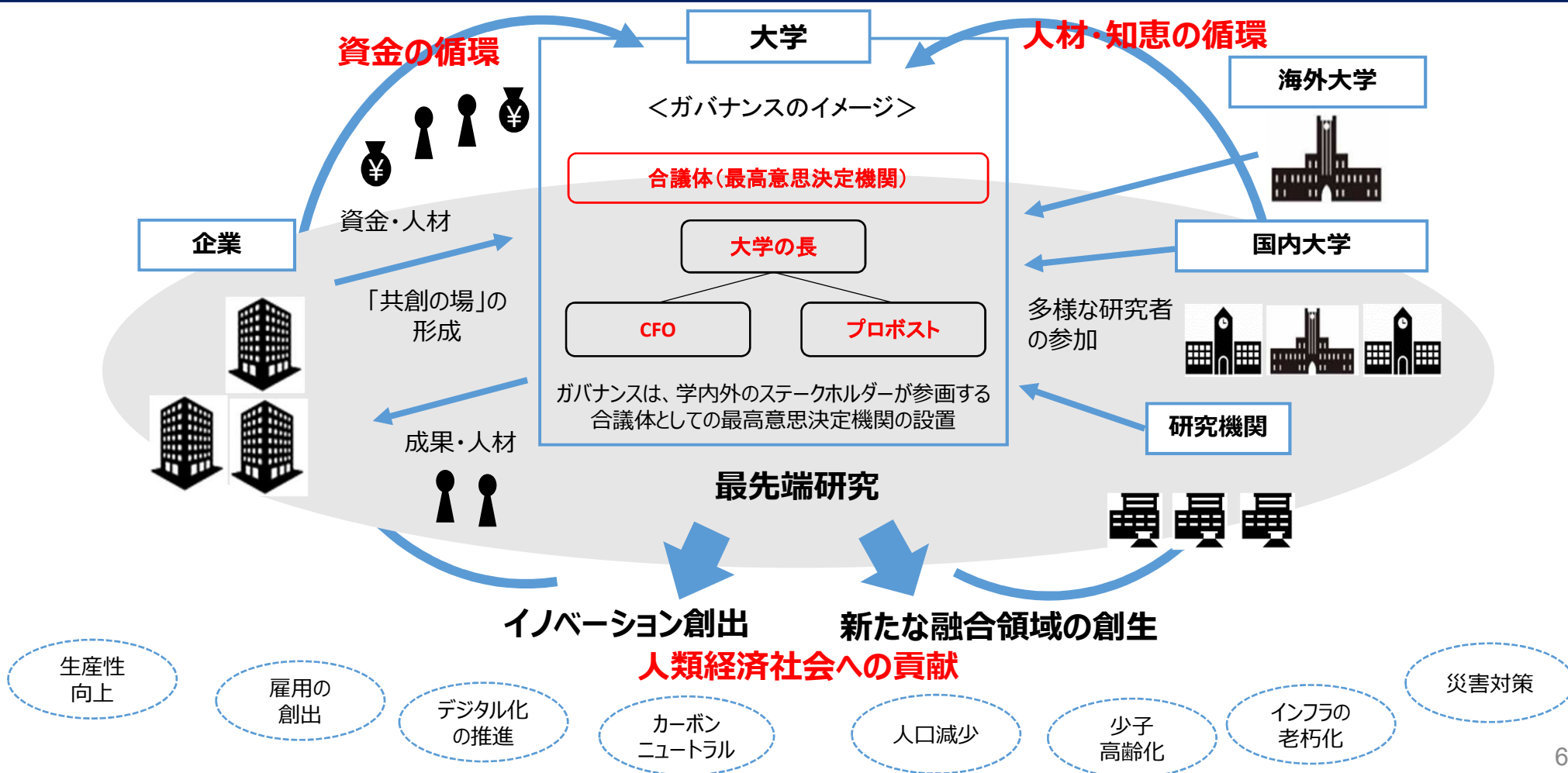
経営体としての大学を目指して（CSTI専門調査会中間まとめ）

第56回CSTI本会議
(8/26) 内閣府説明
資料より抜粋

■ 「世界と伍する研究大学」に求められるコミットメント（成長と改革にコミットした数大学を支援）

- ① **ミッションの見直し**（人類経済社会への貢献） = 研究力の飛躍的伸長
- ② 潤沢な外部資金の確保と**毎年3%（※）以上の事業成長** ※英米の主要研究大学の年間実質平均成長率は3.8%
- ③ **成長を可能にするガバナンスシステム**の導入

最高意思決定機関としての合議体設置／学長の経営資質を重視／学長を支える経営幹部の充実



大学ファンド資金運用WG 検討事項

<会議の開催状況>

- 第1回 4月26日(月) 9:00 ~ 11:00 (オンライン開催)
 - ・ワーキンググループの議事運営等について
 - ・大学ファンドの概要と検討フレーム
 - ・海外運用事例①~Commonfundからのヒアリング~
 - ・国内外の市場動向及び各運用資産の概要

- 第2回 5月26日(水) 10:00 ~ 12:00 (オンライン開催)
 - ・海外運用事例②~Stanford Universityからのヒアリング~
 - ・運用の長期シミュレーション結果の報告
 - ・基本的な運用方針(運用目的・運用目標、リスク許容度等)の議論①

- 第3回 6月15日(火) 9:00 ~ 11:00 (オンライン開催)
 - ・海外運用事例③~Howard Hughes Medical Instituteからのヒアリング~
 - ・基本的な運用方針(ガバナンス、リスク管理等)の議論②

- 第4回 7月9日(金) 10:00 ~ 12:00 (オンライン開催)
 - ・国内運用事例の紹介(企業年金連合会)
 - ・基本的な運用方針の議論③
 - ・運用の基本的な考え方(素案)

- 第5回 7月21日(水) 14:00 ~ 16:00 (オンライン開催)
 - ・運用の基本的な考え方(案)

<構成員>

伊藤 隆敏 (座長)	コロンビア大学国際関係・公共政策大学院教授 政策研究大学院大学 客員教授
上山 隆大	総合科学技術・イノベーション会議 常勤議員
亀井 純子	EY新日本有限責任監査法人 金融事業部 シニアパートナー
川北 英隆	京都大学大学院経営管理研究部 名誉教授
佐藤 久恵	学校法人国際基督教大学 理事
高田 創	岡三証券株式会社グローバル・リサーチ・センター 理事長、エグゼクティブエコノミスト
富山 和彦	株式会社経営共創基盤IGPIグループ 会長
蓑田 秀策	一般財団法人100万人のクラシックライブ 代表理事 元 コールバーグ・クラビス・ロバーツ(KKR)・ ジャパン 代表取締役会長
四塚 利樹	早稲田大学大学院経営管理研究科 教授

8月26日: 大学ファンド資金運用の基本的考え方をCSTI決定
⇒文部科学大臣が運用の基本指針を策定、JSTに通知
⇒JSTが運用の基本方針を策定

大学ファンド 資金運用の基本的な考え方(CSTI資金運用WGまとめ)

第56回CSTI本会議
(8/26) 内閣府説明
資料より抜粋

運用目的/運用目標

運用目的：世界と伍する研究大学の実現に必要な**研究基盤の構築への支援を長期的・安定的に行う**ための財源の確保
大学基金の指針となる運用モデルを示す

運用目標：**長期支出(パイアウト)目標(3%) + 長期物価上昇率(1.38%)以上** ※安定的支援のためのバッファ(3,000億円×2)確保
許容リスク※の範囲内で運用回りを最大化 ※グローバル株式：グローバル債券 = 65 : 35のレバレッジ・ポートフォリオの標準偏差

基本的な事項

運用手法：①**投資理論に基づく世界標準の長期投資・分散投資、グローバルな投資**を推進し、国内外の成長の取り込みを実現

②**市場環境の悪化時も含め、投資規律を重視**、基本ポートフォリオに基づくリバランスを実施

時間軸：運用開始**5年以内の可能な限り早い段階で3,000億円(実質)の運用益の達成**

ガバナンス：①執行部から独立した**運用・監視委員会が運用を適切に監視**

②**運用の「プロ」による実践**、このため、専門的知識を有する優秀な人材の確保のための雇用形態や給与体系を構築

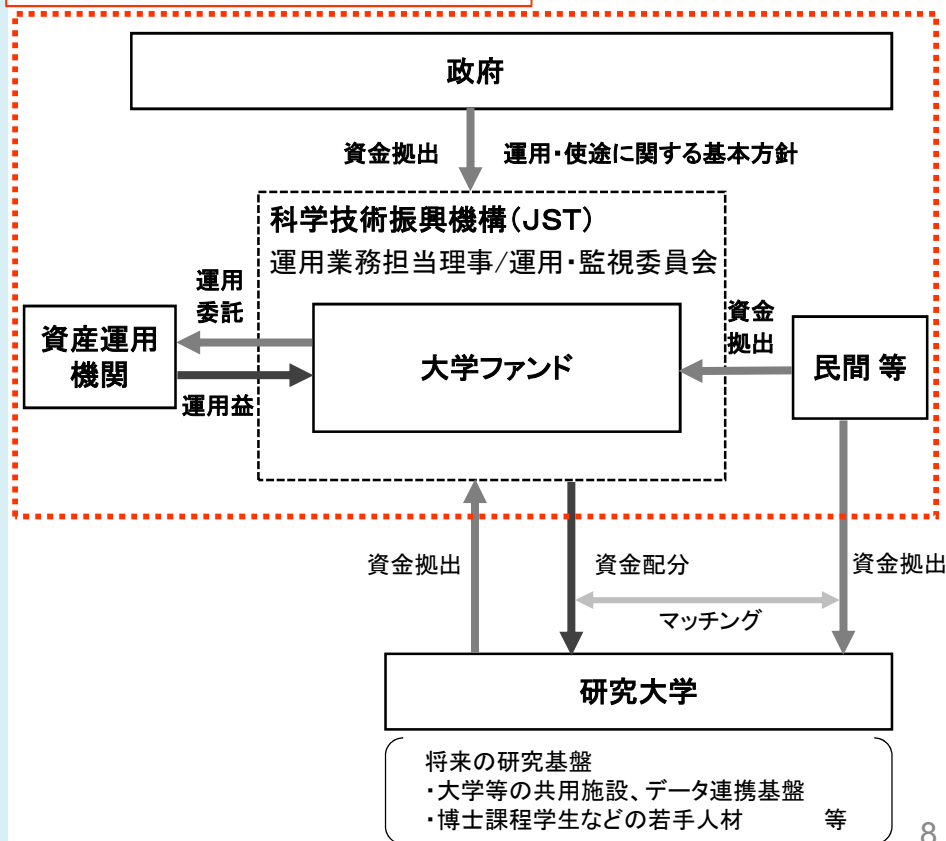
リスク管理：財政融資資金の償還確実性を確保、評価損益が一定の水準に達した場合は、投資規律を遵守しつつ、市場環境等を確認し、結果を国に報告

国への期待

- 投資規律への介入を排除(特に市場環境の悪化時)
- 大学ファンド監督官庁の在り方やCSTIの関与の検討、運用・監視委の位置づけを検証(合議制の最高意思決定機関等)

大学ファンドのスキーム

「基本的な考え方」の主なフォーカス



文部科学省(科学技術・学術分野)の組織体制の検討について

1. Society 5.0やポストコロナなど社会の構造的変化を先導するため、分野の縦割を超えた価値創造が生じる組織へ
2. 我が国の技術的優越性の確保による安全・安心の実現（技術流出防止の強化と研究成果の創出・育成のバランス）
3. 我が国の国力の源泉である大学における研究振興を強化（体制の明確化・高等教育局と研究3局との連携強化）

1. 政策課題

- 以下課題にスピード感を持って対応することが必要

①科学技術・学術政策を先導するための研究現場を持つ強みを活かした政策機能の強化

②大学（研究大学）の研究力強化のための組織体制の構築

※高等教育局と連携して大学の研究力強化を図る使命を明確化

③先端技術開発のための組織体制の構築

④社会的課題への対応強化のための組織体制の構築

2. 組織改革の方向性

- 政策課題に対応し、研究3局を再編

✓ 科学技術・学術政策局（制度基盤・システム整備）
⇒研究力抜本強化の司令塔/現場に根ざす政策創出

〔・研究基盤の強化(研究「人材」、「ファンディング」、「環境」機能を集約)
・安全・安心の実現に関わる科学技術への対応(参事官(国際戦略担当)新設)〕

✓ 研究振興局（学術・基礎研究/先端技術開発）
⇒大学の研究力強化戦略/技術シーズの積極的開拓

〔・学術・基礎研究振興、研究大学の抜本強化(大学研究力強化室 新設)
・戦略的に取り組むべき基盤技術の研究開発の強化〕

✓ 研究開発局（基幹技術/課題解決型研究開発を推進）
⇒社会課題対応、データ利活用の強化のための横串機能強化

〔・国民・国土の安全・安心、ゼロエミッション、持続的な地球環境、レジリエンス化等、ミッション志向研究開発の強化〕

✓ 高等教育局（大学改革と科学技術・イノベーション政策との連動性を強化）